「ミカンのコ」が伸びる喜び、伸ばす喜び

大金　朱音（おおがね　あかね）

担当科目
体育科研究、子ども体育Ａ、現代子ども学概論
現代子ども学演習（1）、現代子ども学演習（2）
卒業論文・卒業制作、スポーツアンド・エクササイズＦ

1．評価対象の科目について

対象科目は、小学校課程履修者の必修科目です。小学校教諭は基本的に全科教員ですので、先生自身が運動が苦手であっても、子ども達に運動を教えなければなりません。運動が得意な学生も苦手な学生も、それぞれの立場から子どもの育ちを支援する方法を考え、運動が得意な子をもっと伸ばし、運動が苦手な子に自信をつけられる先生を目指そう。『体育科研究』は、そのようなコンセプトで構成されています。

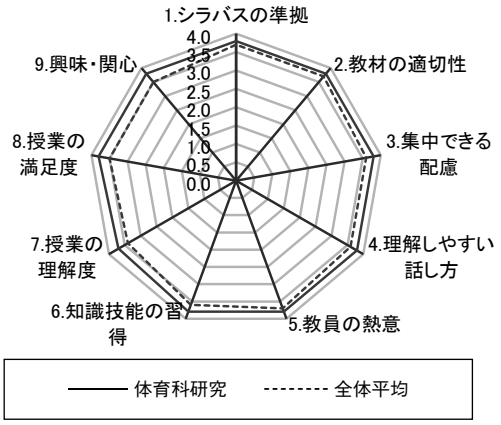
2．授業アンケート結果を振り返って

教員の取り組みの評価については、6項目全部が平均点を上回っていましたが、この評価が私の指導力を表しているのか疑問です。なぜなら、この授業は学生が先生役をする形で展開しているからです。では、学生の自己評価はどうなっているのでしょうか。「授業には積極的に取り組んだ」「予習・復習を行った」のポイントが、平均よりかなり高くなっています。実技科目で予習・復習した！？という事実がもしあるならば、これは大変評価できることではないでしょうか。この授業の形式は、学生の取り組みの姿勢を引き出すことに成功したのかもしれません。一方で、実施場所や設備に不満を感じる学生が多かったのは、学内にプールがないため、水泳実習を行うために尼ケ坂の中学まで2回も行かねばならなかったからかもしれません。

3．授業の内容と工夫

小学校学習指導要領に記載された運動は、「体つくり運動」「器械運動」「陸上運動」「水泳」「ボール運動」「表現運動」など6領域もあります。授業では、6つの領域に例示として示されている運動を、順々に実践していきます。「得意だった子」と「苦手だった子」がペアになり、「得意な子」が「苦手な子」に教える形式で進めていきます。「苦手な子」は、「ミカンのコ（未完の子）」と呼ばれ、苦手種目の克服に励みます。一方、得意な子は苦手な子に教えることで、教えるトレーニングをすることになります。最後は「ミカンのコ」の実技テストで締めくくり、ここで教えた学生の指導力も評価されますから、苦手をなかなか克服できないペアは、私に相談に来ます。このようにして、ペアの知力、体力、寄り添う力、積極性などが試されます。「教える喜び」「学ぶ喜び」が「できた喜び」を通して、師弟で共有できるシステムになっています。

4．今後の展開と学生への要望

「ＴＨＥ・体育教師」である私が、模範的指導法を、学生全員に一方的に教え込む形式で授業を進めたこともありました。それでは学生の皆さんの目が輝かないと感じ、今の形式に落ち着きました。皆さんは、先生になるという夢に向かって、自ら工夫し、伸びる力を持っていると考えますので、私は、皆さんが挑戦する場の提供と安全管理に努めます。皆さん自身が運動が得意・苦手ということを超えて、子どもの育ちを支援する方法を、一緒に積極的に考えていきましょう。

2017年度前期